施設紹介

施設名　矢嶋小児科　病児病後児保育室うりぼう
所在地　〒500-8212　岐阜県岐阜市日野 7-10-7
☎　058-214-7077
FAX　058-240-5130（矢嶋小児科）
記入者名　矢嶋　茂裕（院長）
開設日　2013 年 8 月
定員　6 名
スタッフ　看護師 1 名
保育士 3 名（パート 2 名）

うりぼうは岐阜市で 5 番目の病児病後児保育室として、2013 年 8 月に開設しました。開設当初は矢嶋小児科と別棟でしたが、2018 年 11 月に矢嶋小児科の 2 階に移設しました。保育室は 3 部屋、シャワー室も完備しています。

北側の保育室は国道 156 号線に面しているので、子どもたちは通っていくバスやトラックを見て喜んでいます。

一人一人の病状に合わせ寄り添う保育を行い、子どもたちが 1 日どのように過ごしたのか面白エピソードを話して笑顔で帰っていただけるようにしています。

保護者の方が安心して預けられる保育室でありたいと願い、保護者には「預けて良かった」、子どもたちからは「病気じゃないけど、うりぼうに行きたい」と言ってもらえることと思ってもらえることが私たちの活力です。

施設名　病児・病後児保育室　ラグーン
所在地　〒930-0033
富山県富山市元町 2 丁目 3 番 20 号
わかばメディカルホールディングスビル 2 階
髙重記念クリニック
TEL　076−420−6683
開設日　2008 年 4 月 1 日
定員　10 名

2008 年 4 月、立山連峰を望む富山県富山市、髙重記念クリニックの 3 階に小児科併設型「病児・病後児保育室ラグーン」は開設されました。利用者の増加に伴い、2018 年には同 2 階に移転し部屋数を増し、より多くの疾患や隔離に対応できる施設へと生まれ変わりました。

親子には、それぞれの家庭背景があります。最近の社会動向としては、少子化・核家族化・一人親家庭が増加してます。これに起因して育児技術の伝達の場が減少し、子育ての孤立や不安を持つを人が増えています。育児には様々な困難があり、他にはわかりえない事情も含まれています。

ラグーンが子育ての中の一部となり、親子が笑顔で毎日を楽しく過ごせる様にスタッフ一同、親子の心の安定と子どもの健やかな成長の為に少しでもサポート出来たらと思いながら、日々過ごしています。

編集後記

今号は第 35 回愛知大会会頭の松川先生より熱い巻頭言が掲載されています。

巻頭言を読むと興味深いお話が拝聴できそうで今から楽しみになってまいりますね。愛知県は日本の真ん中に位置し、アクセスもよいので参加しやすい大会となります。愛知大会のメインテーマでもある病児保育の未来予想図をみんなで描きましょう。

広報委員　杉浦

協議会ニュースに関するお問い合わせ先
一般社団法人　全国病児保育協議会　広報委員会　担当：藤　本　保
〒870-0943　大分県大分市片島 83-7　大分こども病院　FAX.097-568-2970
Email：byouji@oita-kodomo.jp

病児保育協議会 NEWS
全国病児保育協議会ホームページ　https://www.byoujihoiku.net/
第 122 号
2024 年（令和 6 年）11 月 1 日
発行人：会 長　杉 野 茂 人（みるく病児保育センター）
発　行：一般社団法人 全国病児保育協議会
〒860-0059　熊本県熊本市西区野中 2 丁目 12-26
みるく病児保育センター内
お問い合わせ：info@byoujihoiku.net

『描こう！病児保育の未来予想図』～子育てを楽しめる社会を目指して～

第 35 回全国病児保育研究大会 in 愛知　会頭　松 川　武 平
（松川クリニック／病児保育室プチポケット）

2025年 7月20，21日に名古屋にて、第 35 回全国病児保育研究大会 in 愛知を開催する事になりました。メインテーマは「『描こう！病児保育の未来予想図』～子育てを楽しめる社会を目指して～」としました。

少子化の時代、子ども達には、多くの問題が起きているように思われます。自尊感情の乏しい子ども達が増加し、何故か日本の子どもたちは先進国の中でも精神的幸福度が取り立てて低いと言われています。また、10 歳代の自殺死亡が増加している事も非常に気になる所です。不登校児の増加、児童虐待の増加、発達障害やグレーゾーンの子どもたちも増加しており、子ども達には何か異常が起きていると思われてなりません。日本の子どもたちの多くは睡眠が乱れ、ゲームやスマホの依存といった生活習慣にも問題が起きております。病児保育の現場において今の子どもたちとどの様に接して行けばいいのかを考えて行かなくてはなりません。私自身は、病児保育を通して子ども達の成長に少しでも関わることが出来ればと思っておりますが、それだけでいいのでしょうか？もっと深く関わる事が出来るのでしょうか？

そこで、今回、教育学、育児学のトップランナーであり、保育のリーダーであられる東大名誉教授の汐見稔幸先生を特別講演にお招きし、ご教授いただこうと企画しました。先生の「人間の蘇生法」についての持論を拝聴させていただけるものと考えておりますと同時に、病児保育現場での子ども達との関わり方についてお教えを願えればと思っております。また、教育講演では、清水宜明先生に「病児保育現場での防災対応について」、川瀬正裕先生に「障害のある子どもとの関わり方」、中山明峰先生に「メディア依存と睡眠」、伊藤健太先生に「感染対策」、吉岡モモ先生に「子どもの貧困」、平林靖高先生に「アレルギー、アトピー、皮膚炎」、上荷裕広先生に「薬の飲ませ方」と題して講演いただく予定です。WS では「絵本」「ベビーマッサージ」「救命救急」「摂食体験」「アレルギー・エピペン講習」「食育」等現場目線で講演内容および演者の先生を決めさせていただきました。盛りだくさんのテーマを設けたつもりです。

元々不採算な病児保育施設が多い所に、今回の COVID-19 の流行のようなパンデミックが起こると、急激に利用者が減少してしまい、病児保育事業の存続に関わる事態になってしまいます。セーフティーネットとして病児保育を考えると今の補助制度では危うさを感じるのを禁じ得ません。名古屋市は今年度より最低保証制度を取り入れていただきましたので、名古屋市行政より「名古屋モデルについて」説明をしていただきます。また、病児保育の現場から、保育士 1 人が 3 人の子どもをケアする事がとても大変との声が上がっております。特に乳児のお預かりが多い時や発達障害の子ども達のお預かりをする時は大変です。今の病児保育の制度が適切なのかを、子ども家庭庁を交えて将来を見据えた討論をしたいと考えております。また、「病児保育の広域利用について」「病児保育と小児在宅について」のシンポジウムを企画しました。将来の幅広い病児保育の展開を見据えて考えてみたいと思います。

以上、中身の濃い充実したプログラムになったと思います。直ぐにでも病児保育の現場で役立てていただける内容になっていると思っております。是非、ご期待ください。

名古屋は日本のど真ん中。会場のウインクあいちは、名古屋駅より徒歩 5 分とアクセスのいい場所に位置しており新幹線のみならず、航空機などでも中部国際空港セントレアより 30 分足らずで来場する事が可能です。交通の便は最高です。名古屋近郊には「ジブリパーク」があり時間の余裕があれば観光されてもいいかと思います。観光が無理であれば、是非、名古屋めしを堪能して帰ってください。「ひつまぶし」「味噌煮込みうどん」「矢場とん」「手羽先」などなど色々あります。是非、楽しみにして下さい。

いりゃーせ、まっとるでよ。

保育園型委員会

2024 年 11 月

「未来につなげる保育看護」　～愛知大会にむけて～

未 来

病児保育研究大会 in 金沢で、
保育の原点や基本に基づいた日常の保育を振り返りました。
その保育園型セミナーで、皆さんの心に残ったキーワードに「10 年後の保育」という言葉がありました。それぞれが抱く未来の保育のカタチがあるかと思います。私たち一人一人が考える今日の保育は未来にどのように影響していくのか。目の前の課題をとらえながら未来を見据え関わっていく事の難しさ、対人間であるがゆえに正解のない対応を「良かった」と確認し「ほかに方法は」と修正し、関わる互いとその周りが都度に納得できて共感できる保育を目指してさらに関わる。原点と基本があるからこそできる思考錯誤を何度も繰り返して私たち保育者は研鑽し続けていけるのではないでしょうか。未来の保育には子どもとその親が希望を持てることを願います。

保育看護に関わる皆さんは保育や看護、栄養士、医師などの資格をお持ちです。資格を志したきっかけやエピソードをお持ちでしょう。病児病後児保育（保育看護）という仕事に就いた時、または就こうと考えた時どのようなきっかけがあったでしょうか。現在の皆さんはその姿に向かえているでしょうか。もしくは実際に携わって方向性が変わった方もいらっしゃるかもしれませんね。そういった経験を経て子どもにとって未来の保育はこうあってほしいという願望が生まれ、その実現を目指して、日々の取り組みを行っている事でしょう。

過 去

保育の始まりは 153 年前にさかのぼります。救済施設を経て託児所となり、最初の公立保育所開設から 30 年後の 1948 年（昭和 23 年）保育所が法的に位置づけられました。病児保育が始まったのはそれから保育所の制度化から 18 年後。制度化までにはやはり 30 年かかりました。保育には様々な形がありますが、「保育」という立場が社会的に当たり前となることが出来た今、保育の形の一つである病児病後児保育が社会の中で当たり前になるにはもう少し時間がかかるかもしれません。

現 在

病児病後児保育の始まりから 58 年経過の現在、病児病後児保育にも様々な形があります。それぞれの特徴がある中で保育園型は保育に優位な立場にあります。「保育」という強みを生かした病児病後児保育の発展にまだまだ模索が続く病後児保育をこれからも一緒に作っていきましょう。

令和６年度三重ブロック研修会報告

前年度の病児保育室カンガルームから引き継いで、病児保育室チェリーケアが担当いたしました。四日市市文化会館第３ホールで開催し、参加人数は56名で三重県のほとんどの施設の方が参加されました。

開催担当施設長の挨拶と三重支部長貝沼先生（病児保育室シェルーム施設長）、三重県庁と四日市市役所からのご挨拶、全国病児保育協議会の近況を常任理事の羽根先生からご報告をいただきました。

特別公演は絵本の読み聞かせでたいへん有名な三浦信也様に「こどもから学ぶ幸せの見つけ方」という演題でご講演を賜りました。絵本の読み聞かせでいろいろな保育園や学校、その他施設なども全国行脚をされており、子どもたちとのエピソードや家族との交流の中で、我々病児保育に携わる者たちの心構えを再認識させてくれるような内容の講演で、参加の皆さんにも大変好評でした。

次に少人数のグループに分かれてグループディスカッション、施設長会議が行われ、熱心に議論され時間になっても止まらないほどでした。

セミナーとして病児保育ネット予約システム「あずかるこちゃん」グッドバトンの園田正樹先生に「病児保育の広域化ICT化でアクセスしやすい環境へ」というご講演をいただきました。

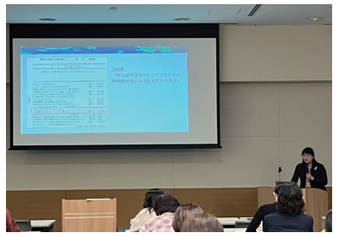
来年も私共チェリーケアが四日市でキャッチーなテーマを考えて開催したいと考えています。

研修会報告者　**水 谷　健 一**　桜花台こどもクリニック　院長　病児保育室チェリーケア施設長

新潟県支部研修会報告

令和5年10月29日、新潟市保健所講堂において、集合形式の研修会を開催しました。

参加者は、保育士、看護師、医師、行政担当者と49名でした。特別講演では、新潟大学医学部保健学科小児看護学住吉智子教授より、「病児保育と多職種連携」というテーマでご講演いただきました。現在のこどもたちを取り巻く環境の変化やこどもの発達と遊びなども含め具体的な事例を挙げてお話いただきました。その後協議会感染症対策委員長佐藤勇先生よりお話がありました。久しぶりの研修会でしたので事前アンケートを行い、現在各施設で行っている感染症対策、医師連絡票の取り扱い、他の施設に聞いてみたいことなどについてなど集約発表し、意見交換を行いました。開催後無記名アンケートでは、「住吉先生のお話が有意義だった」「他施設の様子が聞けて良かったと」など95％を超える高評価をいただきました。今回の研修会案内は、県の担当部署から市町村担当者へと連絡していただき、協議会未入会施設からも参加がありました。現場で困っている課題について共有することで具体的な支援ができる事例もありました。半日開催だったため情報交換の時間を多くとれず次回は時間に余裕をもったスケジュールで開催したいと思っております。



報告者　**三 村　美 香**　早川小児科クリニック　病時保育室カンガルー

機関誌第16号特別企画原稿募集要項

当委員会では、機関誌「病児保育研究第 16 号」の特別企画として、「金沢大会から学んだ事」をテーマに原稿を募集してもれなく掲載させて頂きたく、以下のように原稿を募集いたします。

記

①タイトルはテーマに沿った内容であれば自由。
②字数は WORD で 800 字以内。画像を使用する場合は、データ１点のみ。
③〆切は令和７年２月末日必着。
④送稿方法はメールに原稿ファイルを添付して送付。
⑤原稿送付宛先：全国病児保育協議会事務局
info@byoujihoiku.net

金沢大会に参加された方や大会運営に携わった方などからの原稿大歓迎です。内容は自由に投稿してください。上記要項を遵守して頂ければどのような文章形体でもご自由です。多数のご投稿をお待ちしています。

機関誌編集委員会